



通信

HP 学校だより
R5.11.29
NO.30
文責 伊藤美佳



自分を乗り越える

24日（金）の県民ホリデーを含む4連休が終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。

今週は、30日（木）、1日（金）に6年生が修学旅行に出かけます。来週の7日（木）にはマラソン大会と2学期最後の大きな行事が目白押しです。

さて、マラソン大会に向けて、業間のチャレンジタイムを充実させようと、先生方が時間差方式を考えてくれました。現在、校舎増築中で、運動場に安全ネットが張られている状態の本校では、全校が一斉に走ることが困難です。特に、大外回りをする高学年がネットをよけるためにぶつかりそうになる場面がありました。マラソン大会に向けて先生方の子どもたちに「走力をつけたい」という思いと、「安全に走らせたい」という両方の思いをどうしたらかなえられるか、話し合ってみました。いろいろな条件がある中で、先生たちに共通な思いは「安全に、しっかりと走れる状況を作って、今の自分を乗り越えてほしい」でした。そのためには、「安全を考えて、全校を2つに分けて走らせる」、「チャレンジタイムを8分間に伸ばす」を可能にする方法を考えなければなりません。その思いを胸に、先生方がアイデアを出し合って話し合い、無理なくできる方法を考えだしました。これは、子どもたちが授業で問題を解決するために話し合う姿と同じです。一人一人が自分事として考え（主体）、考えを持ち寄って話し合い、より良い方法を見つけ出す（協働）、そんな学びがこれからも浸透していくことを願っています。

子どもたちは8分間を自分のペースで走っています。この8分間は、自分との戦いだと考えます。人との比較ではなく、昨日の自分との比較であれば、自分の成長がより確実に感じられでしょう。「昨日よりも一歩でも前へ」そんな気持ちで走ることができたとしたら、「昨日の自分を乗り越えよう」と頑張ることができたなら、つらくとも頑張りがぬく楽しさを味わうことができることでしょう。子どもたち一人一人が、そんな気持ちを味わい、成長してくれることを願います。人との比較ではなく、過去の自分との戦いを制して、ひとまわり成長し、自信をつけた自分との出会いができるマラソン大会となることを期待します。

「楽しい」とは

家庭教育学級（親子活動）が各学年の委員さん（保護者）によって計画され、実施されています。それぞれの学年の子どもたちや保護者のニーズに合わせた内容を計画されており、子どもたちはもちろん、保護者の皆さんも楽しんで参加してくださっています。一番感心したことは、委員の皆さんが委員長さんを中心に、よく話し合い、準備し、会を運営することを楽しんでくださっているように見えることです。当日までの準備は大変で、「楽しい」なんて書いてはいけないかもしれません。しかし、大変なことでも「楽しんで取り組む」そんな姿にあこがれますし、敬意を表します。

委員の方が「どうせやるなら、自分たちも楽しんだ方がいいと思って。」と言ってくださいました。子どもたちにもこんな考え方ができるようになってほしいです。